

市町村名： 武豊町

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

武豊町（町内一円）～半田市青山駅

(2) 利用数（現在：令和5年度（見込））

44,396人（令和5年度見込人数）
※令和5年度実績値（R04.10～R05.3）と令和4年度実績値（R04.4～R04.9）より算出

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

従来は地域内フィーダー系統にて運行していたが、平成27年度にルート再編を行い、隣接する半田市（イオン半田市）に乗り入れる地域間幹線系統に変更を行った。以前行った住民アンケートによると利用者は高齢者が多く、買い物や病院に行く手段としてコミュニティバスを利用する乗客が多かったため、そのニーズをカバーした。平成30年10月からは青山駅へ接続し、広域交通ネットワークの構築を図っている。利用者の増加に伴い、遅延が多発したため、令和元年10月より便数の見直しを行い、1日11便を9便に変更した。また、併せて65歳以上の運転免許証の自主返納者と70歳以上の高齢者を対象とした無料乗車券交付事業を開始した。路線全体の利用者の2割以上が半田市への乗り入れを行っており、利用者にとっても広域での移動が可能となっている。

(4) 路線の必要性

武豊町は、名鉄河和線の3駅、JR武豊線1駅の鉄軌道があるが、路線バスについては運行されていないため、住民から公共交通サービスの提供に対する要望、公共交通空白問題を抱えていた。そのため、コミュニティバス及び接続タクシー事業を展開することで、交通空白地を解消し、誰もが安全・安心で快適に移動できるまちを目指している。

2. 輸送サービスの形態

名古屋鉄道株式会社及び東海旅客鉄道株式会社による鉄道運行
知多乗合株式会社による武豊町コミュニティバス運行、安全タクシー株式会社及び名鉄知多タクシー株式会社による武豊町接続タクシー運行
知多乗合株式会社による基幹路線バス（半田北部線・半田・常滑線）運行（青山駅での接続）
知多乗合株式会社・安全タクシー株式会社による半田市地区路線バス（A・B）運行（青山駅とイオン半田市での接続）
知多乗合株式会社による常滑市コミュニティバス運行（知多武豊駅での接続）

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統キロ程	関係市町村キロ程		1日当たり計画運行回数	運行時間帯	備考
		起点	主な経由地	終点		武豊町	半田市			
計画 (R5.10)	ゆめころん（赤ルート）	武豊町役場	青山駅	武豊町役場	循環 12.8	循環 10.0	循環 2.8	9.0	8:15～17:45	

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

知多乗合株式会社（令和4年10月より）
指名競争入札により選出された業者であり、他自治体での実績があるため。
（契約期間は令和7年9月末まで）

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当たり計画運行回数 (回) A	計画平均乗車密度 (人) B	計画輸送量(人) 1日当たり計画運行回数 ×計画平均乗車密度 《A×B》	キロ当たり 経常費用 (円) C	当系統キロ 当たり 経常収益 (円) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F 《C×E》	経常収益 (千円) G 《D×E》	欠損見込額 (千円) H 《F-G》	負担者別内訳				
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)	
計画 (R5.10)	ゆめころん（赤ルート）	9.0	5.5	49.5 9.0 × 5.5	497.21	33.22	42,163.2	20,963	1,400	19,563	3,820				15,743
(現行からの変更点) 現行では年末年始に運休日を設定していたが、令和6年度より年末年始も運行する															

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	5年度(見込)	6年度	7年度	8年度
年間利用者数(人)	44,396	44,500	45,000	45,500
※上記目標設定の考え方	新型コロナウイルスの影響からの回復および令和4年4月策定の地域公共交通計画の目標値を踏まえた数値で算出			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
6年度 7年度 8年度	地元住民や他団体等と連携した利用促進事業の実施。ホームページ、広報誌等を活用したPR。近隣自治体との連携による利用促進事業の検討・実施。 地元住民や他団体等と連携した利用促進事業の実施。ホームページ、広報誌等を活用したPR。近隣自治体との連携による利用促進事業の検討・実施。 地元住民や他団体等と連携した利用促進事業の実施。ホームページ、広報誌等を活用したPR。近隣自治体との連携による利用促進事業の検討・実施。

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
6年度 7年度 8年度	・ゆめころん（赤ルート）路線の維持により、住民の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。 ※実績を見ると、鉄道（名鉄知多武豊駅、名鉄青山駅、JR武豊駅）での乗降者数の割合が4分の1以上を占めている。また、通院・通学での移動手段としても必要不可欠である。 ※半田市の大型商業施設（イオン半田市）と鉄道（名鉄青山駅）に接続することで、行政境を意識することなく移動できる広域的な交通網が形成されている。 路線全体の利用者の2割以上が半田市への乗り入れを行っており、利用者にとっても広域での移動が可能となっている。

(4) 令和4年度事業評価結果を踏まえた取組等

利用者数は令和2年度、令和3年度のコロナ禍に比べ回復傾向であり、利用者目標値を上回ったが、令和元年度のコロナ禍前の数値には至っていない。コロナ禍前の数値以上を目標とし、ホームページ、広報紙等を活用したPRに取り組む。住民団体との連携を深めるほか、停留所の更新による待合環境整備・向上、安全安心な乗車のための抗菌・抗ウイルスコーティングの再実施等の取組みを図る。

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 6年度の生産性向上の取組

取組	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	半田市	市町村名		市町村名	
経費削減策等	①高齢者に対する無料乗車券交付事業を継続的に実施 ②町の広報紙を活用した「コミュニティバスニュース」（不定期）により無料乗車券交付事業や公共交通活用のメリットについてPRを実施 ③住民団体である武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と協力し、町産業まつりにてブースを設けてPRを図る ④昨年改編した交通空白地を対象とするデマンド型交通である接続タクシー制度の更なるPRにより、乗ルートの改善にも繋げていく ⑤地域間の交通ネットワークを意識した半田市・運行事業者との情報共有等 ⑥停留所の更新による待合環境整備・向上 ⑦抗菌・抗ウイルスコーティングの再実施	①本市フィーダー路線の継続実施により、武豊町コミュニティバスとの接続を可能とする ②バスロケーションシステムの継続運用・経路検索サイトでのバス情報の公開により、利便性の向上を図る。（武豊町との接続を含む） ③時刻表の公共施設等への配架 ④高齢者運転免許自主返納促進事業の継続により、対象となる高齢者にバス利用券を交付し、利用促進を図る。（武豊町との接続を含む） ⑤引き続き、多路線の接続がある青山駅停留所やイオン半田店停留所における、武豊町との円滑な接続のための情報共有、乗継環境等の向上を図る					
スケジュール等	①高齢者に対する無料乗車券交付事業を随時実施 ②「コミュニティバスニュース」（不定期）により実施 ③町産業まつり（11月第2週土日） ④随時、②とも合わせたPRの実施も検討 ⑤随時 ⑥早期着手を目標として実施 ⑦前回実施した有効期間の終わりを迎える前の年内実施を目標とする	随時					

(2) 定量的な効果目標

指標	収支改善率1%
----	---------

【参考】経常収支率

2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
12.3	9.4	37.69		